

町田市議会議員・納税者主権

町田市議会

吉田つとむ

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171

取材・記事作成・総合編集

無所属保守

双方向の情報交流

格式ある都市=町田を求める

私は、町田市は中核市を目指すべきだとの提案を行っています。それは、町田市が東京都の中でも政治的・経済的に自立的な都市となれるように考えているためです。

私が議会で中核市について尋ねると、市長は保健所も町田市がすでに管轄しており、中核市に移行するメリットはないと答えています。現状の打算的な考えのみで考える立場に思えました。しかし、都市として格式はどうなるかと考えると、長期的には八王子市や相模原市と比べて町田市の位置づけが低落に向かう分岐点になるでしょう。



町田市は人口43万人弱、全国で38位の人口数の都市です。しかし、政治的には東京市域部の中で八王子市はもちろん、人口がはるかに少ない立川市などに比べてもはるかに低位の扱いに甘んじています。経済的には、隣接の政令指定都市になった相模原市にビジネス機能が移りつつあります。私は、町田市の昨日までの繁栄は過去のものであり、このままでは衰退の道を歩む可能性が高くなると推測しています。

今後、町田市が格式を持った都市になるための戦略づくりに重点を置いて提言をして行きたいと思っています。

リニア新幹線の開通は2027年

JR東海は、東京・品川-名古屋間で2027年(今から13年後)の開業を目指してリニア中央新幹線の建設を行う予定です。そのJR東海は、これまで各地で工事計画の準備に関する説明会を開催してきました。すでに、環境影響評価の手続きに入り、本年秋にも着工する方針を取っており、工事計画書を本年6月にも国土交通省に申請すると見られています。

もちろん、リニア新幹線はその通行安全性や工事費用の確保に懸念を一部に持たれていますが、国と違って、民間のJR東海が自己資金を自主的な判断で運用するものであり、その対策に十分な時間と技術が費やされています。しかも、これまでのような政治(家)の口出しはずっと減るでしょう。

まずは、東京(品川)~名古屋間が40分到達する話題が先行しますが、私は都心の品川と相模原市橋本と10分ほどで行き来することができる都市圏になることの方がより経済的にも効果が大きいと考えるものです。理想的には、現行の新幹線新横浜駅と橋本駅のエリア全体が一つのビジネス圏となることがこの町田市を含めて地域を発展させる方策でしょう。



★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ(自宅)

町田市議会報告 住民自治

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

吉田つとむ自宅

〒194-0011
東京都町田市
成瀬が丘1-14-12
サンホワイトE103-13
☎042-795-7361次期インターン生を
募集しています

東京は地方を見捨てるわけにはいかないと考える意見

議員提出議案28号「地方税財源の拡充に関する意見書」に、ただ一人反対しました。同意見書の内容は、東京都に集中する地方法人特別税の収入から国がそれを地方に配分するのではなく、都内自治体の福祉の充実に回すべきであると言う主張です。その冒頭部分は次の内容です。(ちなみに、以下は他の自治体HP文をコピーしました)

真の分権型社会を実現するためには、国と地方の役割分担を明確にし、地方がその責任と権限に応じた役割を果たせるよう、地方財源の拡充を図る必要がある。

すなわち、地方全体で巨額の財源不足が生じている中、まずは国から地方への税源移譲を行うことなどにより、地方税財源の拡充を図ることが重要であり、平成20年度税制改正で導入された地方法人特別税及び地方法人特別譲与税のように、地方固有の税を地方間の財源調整に用いるような対応は、厳に慎まなければならない。(以下、省略)

ネットで調べた範囲のことですが、「地方税財源の拡充に関する意見書」という意見書は、東京都内随所の自治体で可決しており、都区部と市域部では一部の文言が異なりますが、ほぼ同趣旨の内容です。とりわけ、「真の分権型社会を実現するため」と言うくだりがあるのが特徴でした。たまたま私には時間がないので、関心が深い皆様には、真に、分権に相応しい文章であるかどうかを、関係する全自治体の文面を比較対象してご確認いただきたいと思います。

さて、私はこの提案された意見書に対して、次のような反対討論をしました。原稿は作らず、その場の発言でしたので、発言趣旨を記載します。

地方は大変疲弊(ひへい)をしている。その復旧・復活が困難な限界集落(吉田注：過疎化・高齢化の進行し、集落の自治、生活道路の管理、冠婚葬祭など共同体としての機能が衰え、消滅に向かうとされている地域)と言う表現があるが、すでに限界自治体が発生している状況である。

そうした時に、東京が自分のことだけで地方を顧みない考え方で果たして良いのか、私はずっと疑問を抱いている。地方出身の皆さんには、自分の故郷がどうなっているか、自分たちを東京に送りだした地域が今後どうなっていくかをぜひ考えていただきたいと訴えたい。(地方の声を聴く機会の会合写真)



ひるがえって、区部と市部のいわゆる三多摩格差の是正が急務であり、その格差是正が欠かせないと言う主張は我々議員の考えであった。都政が三多摩にシフトをすること、

23区と市の相違を解消することが課題である。東京都と町田市の観点で言えば、保健所が東京都から移管し、財政的に町田市が自立していける財源移譲が欠かせないのである。

掲載記事、あるいはご関心事は、下記のFAXもしくはメールまでご送信ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile : yoshidaben@docomo.ne.jp

町田市議会報告 教育・文化

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171
FAX.042-724-1196

無所属保守



金田有里恵 研修レポート⑨

町田新産業創造センターに入居している、有限会社オフィスGENさんと面談をさせて頂きました。よくある株式会社とはひと味違った会社を見ることができる良い機会でした。私自身音楽に関心があるので、今回選ばせて頂きました。面談を担当して下さったPAPAS源太さん自身はアーティストで、バンド活動をしているそうです。また、地元でアーティストを発掘し、彼ら売り込む活動もしています。さらには、CM製作を手がけることもあるそうです。会社の活動内容が多種多様で、驚きました。音楽は世界共通語ですから、世界中の人々に自分を表現する手段だと私は認識しています。



PAPAS源太さんにも似たような考えがあるように思われました。彼はかつての絹の道(シルクロード)、現在の八王子—町田—横浜を、音楽でつなぐ活動を試みているそうです。地域間のつながりは人と人とのつながりです。人と人をつなげることはわたしの共通語認識に一致するものがありますから、親近感がわきました。面談の最後には、吉田議員とPAPAS源太さんは再来年の催し物の開催の話に行き着きました。急な展開で驚きましたが、このようなきっかけでイベントが出来上がるのだ、という全く

新しい発見をすることができました。

(2013.12の記事)

(第33期研修生 金田有里恵)

フェリス女学院大学1年)

浅野 遼 研修レポート④

この日は吉田議員のはからいで町田市保健所に訪れました。町田市保健所の組織は大きく保険企画課、生活衛生課、保健対策課の三つに分かれているそうです。今回は主に私の専門分野に関わる生活衛生課についての説明をしていただきました。

生活衛生課の中でもさらに担当別になっており、狂犬病予防や動物の愛護および管理を行う『動物管理係』、診療所、薬局等の開設許可、医療資格者の免許、医薬品、医療機器、毒劇物に関して『医薬指導係』、理・美容所、クリーニング所、公衆浴場に関して、施設の衛生に関して『環境衛生係』、飲食店、食品製造業等の営業許可・監視指導、食中毒の防止および調査、調理師に関して『食品衛生係』が設けられています。実際に様々な施設に向ったり、人と関わる事が多い仕事だと仰って頂きました。専門分野は個人でこなして行くイメージがありましたが、保健所の仕事はいい意味で予想を裏切りました。

保健所は公務員というだけでなく、医師、栄養士、薬剤師や放射線技師など資格を持った職員が多く配置されており、資格の重要性も感じさせられます。また、町田市保健所は市民に対して講習会を開催したり、相談に応じたりするなどオープンな活動をしていたのが印象的でした。

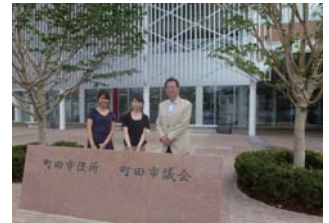
公務員は就職の分野に考えていませんでしたが、この経験からも視野に入れつつ就活活動をしていこうと思います。

(第33期研修生 浅野 遼 東京薬科大学3年)

町田市議会議員 議会報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

携帯QRコード
でブログ閲覧

市議会の見学・傍聴

小泉愛佳レポート2-2

文学館では、町田市出身の作家赤川次郎展を拝見する機会がありました。彼の展示会は今回初であり、フロア全体を使って彼の執筆原稿、また学生時代のテストの採点結果や成績表なども展示されていました。最近私達がよくテレビで目にする作品なんかも訂正を重ねた原稿が数千枚にも及び展示されていました。



それらを生で見ることにより非常に感動を覚えると同時に、見ている側には伝わらない努力の背景がそこには存在するという事を改めて展示会場に足を運んだことにより気付きました。私が一番印象的だった出来事は、昔から活躍している作家としては珍しくデビューを若年でしているという点です。よく昔の作家たちは遅くしてデビューしたという話を聞く中、彼は早いデビューをし、且つ、短期間でいくつもの作品を手掛けているという点がとても印象的でした。そんな彼は、一か月に千枚のペースで原稿を書き上げていると展示会の説明の中にありました。

私自身大学で近代文学から現代文学を研究分野にしているため、今回のこの文学館訪問はととても魅力的なものでした。

(第33期 フェリス女学院大2年 小泉愛佳)

古田知之の研修レポート3

ビルや発電所、変電所等の電気の点検をする企業の社長とお話をさせていただきました。今回は実際に会社に出向き、会社内部の応接室で、さらに初めての社長とお話ということで今までになく緊張していました。しかしとても気さくに話しかけてくださり、リラックスしてインタビューに臨むことができました。

社長は一から起業したとのことで、成功するうえで心がけることを聞いてみたところ、「無一文になるまであきらめずにやり続ける」とおっしゃっていました。成功するには正解などなく、自分を信じて最後までやり抜くことが大切だと感じました。また、仕事のやりがいについて尋ねてみると、社員が生き生きとしていて仕事に満足していることが感じられたときだそうです。社長自身のことではないことに驚きましたが、それが結果的に業績に繋がり、会社が躍進できたのだと思いました。

(第33期生 芝浦工大3年生 古田 知之)



(テクノハカルエンジニアリング(株)
但野光良社長を訪問取材しました)

★吉田つとむのインターンシップについて〈1998年～現在33期まで〉

★大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を行っている研修制度です。

インターン希望の方、あるいは関心がある方は、ホームページ掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。